

出産おめでとうの声
ありがとうございます

知ってほしい

不育症のこと



お話／青木産婦人科クリニック
青木耕治先生

「不育症」は、女性なら誰にでも起こりうる身近な病です。最終回の今号は、青木先生に現在の「不育症」の状況についてお話をうかがいました。

赤ちゃんが欲しい

妊娠が出来ない

不妊症

不妊症治療

妊娠

流産・死産を
くり返してしまふ

不育症

不育症治療

出産

「不育症」の年間患者数は約7万人

妊

娠ができない「不妊症」は広く知られていますが、妊娠はできるのに赤ちゃんがおなかの中で育たず、流産・死産を繰り返してしまふ「不育症」は、残念ながら、まだ一般的に知られていないと言えませんか。

しかし、2009年現在、年間患者数は7万人以上と言われ、妊娠女性の2〜5%が直面するとても身近な問題です。私のクリニックにも、1週間に14人ほどの新しい患者さんがいらつしやいます。

以前は、「不育症」を専門に扱う機関が少ないこともあり、流産や死産をしても誰にも相談できず、原因がわからないまま諦めてしまう方も多くいました。

しかし、最近はインターネットで情報を集めやすくなったこともあり、遠方から治療にいらつしやる方が増えています。そして、その多くの患者さんが無事出産されています。

4人にひとりが「不育症」+「不妊症」

作

品の中でも、楠さんが「不育症」と平行して、「不妊症」の治療をされていましたが、同じ様に「不育症」と「不妊症」の両方に悩む患者さんは多くなっています。当クリニックでも今は4人にひとりくらい、それほど頻度は高いです。今までは自然に妊娠できていたご夫婦が、流産を繰り返すという経験をされることで、妊娠をしにくくなつてしまつたということは少なくありません。流産によつて傷ついたことや、次の妊娠に対しての焦りなどがストレスになつてしまふことが原因と考えられます。一刻も早く妊娠するために、子作りのタイミングを過度に気にしてしまふのです。

もちろん妊娠には身体の周期を知る必要があります。しかし私はタイミングよりもご夫婦の体調が大切だと考えています。心も含めたご夫婦の体調をおふたりで見つめなおすことが、ストレスの軽減にもつながると思います。

また最近「不妊症」で体外受精を試みても妊娠にいたらないという方が、「不育症」の診察に来られるケースが増えています。その多くの患者さんが抱えているのが「不妊症」と「不育症」の境界領域に位置する「着床障害」です。「着床障害」は、受精卵が子宮内に着床できず、妊娠が継続できないことを言います。体外受精などで本来妊娠するには十分な卵を体内に戻しているのに、卵が育たないという状況は、もう「不妊症」ではなく、「不育症」の治療領域と言えるのです。